

栗原市

第五十八回宮岩手選抜神樂大会

優勝

平成三十年九月八日 妙見七辰神社

城生野神樂 鶏舞



つきだてじょうの  
築館城生野に伝わる城生野神楽は、文政年間（1818～1830）の頃に、<sup>とみすけ</sup>富助  
という者が現在の一関市萩荘市野々の山伏から習得したと伝わっています。なか  
でも、代表的な演目が“<sup>とりまい</sup>鶏舞”です。その舞は、場を清め、神々を招くものであ  
るといわれています。打ち鳴らされる太鼓と<sup>かね</sup>鉦に続いて、華やかな<sup>とりかぶと</sup>鳥兜と衣装を  
身にまとった<sup>まいびと</sup>舞人達が、唄にあわせて立ち上がり、手にした<sup>おへいそく</sup>御幣束と扇子を巧み  
に翻しながら激しく舞う姿は、岩戸に籠った  
<sup>あまてらすおおみかみ</sup>天照大神を誘い出すため、岩戸の前に<sup>あめのうずめのみこと</sup>鶏を集  
めて鳴かせ、<sup>あまのいわと</sup>天鈿女命が踊ったという「天岩戸  
神話」に由来するものとされています。



家内安全、身体堅固、<sup>ごこくほうじょう</sup>五穀豊穰などを祈願する  
舞として、城生野地区周辺の八幡神社や鹿島神社、白山神社で奉納されるほか、  
お祝い事や厄払いなど、数々の節目にあたる場面で披露されており、地域のひと  
びとの心の拠りどころとして長年にわたり愛され、大切に受け継がれています。